

日台稲門会

ニュースレター-2024年冬号 (12月発行)



発行所：日台稲門会
会報・NL編集委員会
office@nittai-toumon.com
発行・編集責任者： 根本 宏児



2024年度早稲田大学台湾校友会総会 (11月16日開催)

ご挨拶 根本宏児 会長

今年も暑い夏の後、すぐに冬到来という感じで、季節の変化に体調の調整が難しい日々ですが、如何お過ごしでしょうか。

日台稲門会の行事としては、秋の講演会を稲門祭に参加する形で開催し、鈴木武生先生から多言語社会の台湾について興味深いお話を頂きました。大変好評でしたので、来年の講演会も稲門祭の時期に開催出来ればと考えております。

また、11月16日には台北で開催された台湾校友会の総会に参加してきました。今年は田中総長も出席され、呉会長のもと盛大に開催されましたので、ご報告いたします。いよいよ来年はトランプ政権の再来となりますが、様々な方面で影響が出てくると予想されています。特に台湾も注視していく必要がありますので、来年も日台稲門会を宜しく願いいたします。



頁			
1	ご挨拶	会長	根本宏児
2	2024年台湾校友会総会 挨拶	台湾校友会会長	呉昕陽
2	台湾校友会総会に参加して	幹事	相京浩一
3	台湾立法院公聴会での【公民投票法】について発表	前幹事	傅馨儀 (Elisa)
4	講演 2024年 秋季講演会	常任顧問	梶山憲一
5	吉村剛史さんが「台湾フェロシップ」に合格!	常任顧問	梶山憲一
5	最近の情勢・新聞より		
6	経済ニュース紹介	幹事 東洋経済新報社記者	劉彦甫
6	2024年、映画を創った!	映画監督	小川英郎
6	おすすめの台湾映画	台湾エンタメ迷	雪川睦美
7	白井克彦元総長、早稲田を語る、台湾を語る、世界を語る	常任顧問	梶山憲一
8	第30回秋季日台早慶ゴルフ対抗戦	副会長	渡邊義典
8	新入会者紹介	幹事	広谷光紗
8	Facebook グループ日台稲門会ご利用のお勧め	事務局長	西本誠
8	編集後記		

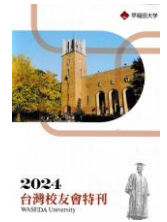


■2024年台湾校友会総会 挨拶 早稲田大学台湾校友会 呉昕陽会長

2024年は第10期理事監事会議の一年目です。世界経済と国際情勢が変化する中で、台日間の友好な交流が活発化しています。早稲田大学台湾校友会と母校との関係もさらに深まりました。2018年に田中愛治総長が「世界で輝く大学」をビジョンに掲げてから、教育と研究の国際競争力を高めるための努力が続けられてきました。今年7月7日には田中総長は、我々も参加した校友会全国支部長会議と商議員会議の席で、建学の精神である「研究の早稲田、教育の早稲田、世界の早稲田」の三つの柱をベースに社会に貢献するという今後の展望について熱い思いを話されていきました。また母校の積極的な海外教育と交流の姿勢も示されました。今年、母校の弦間理事が二度来台され、基金会設立の提案もされました。台湾校友会もこれを支持し、奨学金設立や産学連携の強化などを目指したいと思っています。大学の野球部が台湾を訪れ、交流イベントを行ったことや大学商学部の学生が台湾大学での研修に参加したことなどもその一つです。このような交流が教育提携を深めるものと期待しています。台湾の早稲田大学卒業生は、台湾社会の発展と国際競争力の向上に貢献してきましたし、今後も貢献したいと思っています。本会は組織再編成と活動推進を通じて、校友間の連携を強化し、台日交流の架け橋として多様な活動を行っていきます。これからも校友の皆様ご支持支援をお願いいたします。



呉昕陽会長



■台湾校友会総会に参加して

早稲田大学台湾校友会総会が、2024年11月16日(土)台北の台北喜來登大飯店(シェラトングランド台北ホテル)B2Fで開催されました。早稲田大学の田中愛治総長のご臨席があり、早稲田大学校友会萬代晃代表幹事が参加されました。台湾校友会：76名、早稲田大学校友会本部：11名、交流中心3名、応援部6名、台北稲門会：18名、日本各地からの稲門会：40名(世田谷、日台、徳島、行政書士、東京23区、新宿、千代田、遠州、静岡、福岡、中野、沖縄)と多くの校友会メンバーの参加があり、総勢150名を超える盛大な会となりました。

日台稲門会からは、根本会長(総会のみ)、三村名誉会長(前夜祭のみ)、小川幹事長代行、広谷幹事夫妻、跡部会員(前夜祭と総会のみ)、相京幹事の計7名が参加しました。呉昕陽会長が式辞で開会され、田中愛治総長のご挨拶からは、150周年記念事業の究極の目標である、

- ①2040年までには日本で最も効果的な教育を受けられる大学、
- ②2050年までにはアジアで最も効果的な教育を受けられる大学だと世界中の人々が思うような大学になると、決意を述べられました。校友会萬代晃代表幹事からご挨拶のあと、台湾校友会より田中総長へ記念品の贈呈がありました。

また日台稲門会根本会長から台湾校友会呉昕陽会長に記念品を贈呈しました。73歳となられる田中総長の誕生日祝いも会場の全員で行いました。

その後、台湾の太極拳選手の演武があり、早稲田大学応援部チアリーダーズによるスタンツのパフォーマンスと続きました。スタンツのトップポジションは、早稲田大学理工学部から早稲田大学理工学部大学院に進学された台湾校友会総幹事鄭世維さんのお嬢様です。応援部リードによる応援歌メドレーと続き、校友ひとりひとりが左手を腰にあて右手を高く上げ、元気よく校歌を3番まで斉唱しました。あらためて日本と台湾の深いつながりを感じることができる台湾校友会総会でした。



日台稲門会メンバー



チアリーダーズ



台湾の太極拳演武

11月17日(日)は、台湾校友会娯楽活動「観光ツアー」に参加させていただきました。
台北喜來登大飯店ロビーに集合し、台湾校友会の林滄智元会長も同行いただき、台湾校友会：3名、早稲田大学校友会本部：5名、日本各地のからの稲門会：22名(世田谷、日台、徳島、行政書士、東京23区、新宿、千代田、福岡)大型バスで角板山公園に向かい、大溪老茶廟で見学した後、昼食は焼肉飯をいただきました。李梅樹記念館、三峡清水祖師廟とまわり、晚餐は台湾料理の定番、欣葉菜葉創始店でいただき、応援部のリードのもと校歌を歌い、前夜祭、総会、観光ツアーと続いた日程で大いに交流を図ることができました。



11月15日(金)台北稲門会主催の前夜祭から総会、観光ツアーと続く3日間は、大いに交流を深めることができました。次回もぜひ、参加させていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。(相京浩一 幹事)



■傳馨儀 (Elisa) さん (弁護士、前日台稲門会幹事)、立法院公聴会で【公民投票法】について発表 (ビデオあり)
前日台稲門会幹事で現在、台湾で活躍されている傳馨儀さんが、立法院内政委員会の公聴会で専門家として意見を述べられました。以下、傳馨儀さんの報告です。

台湾の国会では議論が過熱し、時には争い事が発生することもございます。そうした中で、自分の意見をしっかりと主張しながらも、与野党間の対立を和らげるための工夫が常に求められており、日々頭を悩ませております。加えて、現在の台湾社会では選挙や公投(公民投票)に関する議題について大きな分断が生じております。そのような困難な状況に直面していた中、今回日本からお越しいただいた先輩方との交流を通じて新たなひらめきを得ることができました。今回の発表では、人類の民主制度の起源に立ち返り、台湾が民主主義を実現する上で直面している課題について議論を展開しました。その際、山川出版社の『世界史』を引用し、台湾の国会委員の皆様へ参考資料として提供しました。ややユーモアを交える内容だったかもしれませんが、台湾国会のライブ中継では非常に好評で、与野党の議員の皆様が驚きとともに興味深く聞き入ってくださったようです。

このような貴重な再会の機会をいただき、皆様と楽しい時間を過ごせましたことを心から感謝申し上げます。今後も台湾各地で日本の素晴らしい文化を広め、日台の友情をさらに深めていけるよう努力してまいります。冬の寒さが身に染みる季節となりましたが、どうぞご自愛ください。
また日台稲門会の諸先輩方にお目にかかれることを、心より楽しみにしております。 Elisa 拝

公聴会では、公投(公民投票)と選挙の分離や法改正の影響について説明し、公投を制度の補完手段として最後の選択肢と位置付け、制度設計の精緻化の重要性を説明しました。以下、公聴会での発言内容です。

【立法院中継ネット配信動画】

(公聴会でエキスパート証人として説明。日本の山川出版の『世界史』引用箇所は37分20秒ぐらいに登場)

【LIVE】1118 民眾黨提案修法公投案印同選票 内政委員會公聴會

https://www.youtube.com/watch?v=_EYvajhw0aQ (全体)



傳馨儀さんは動画の中、32:27-41:33で発言

国民投票の歴史と直接民主主義との関連性、国民投票の有用性と憲法に対する制限の強化、次に他国の経験から国民投票をどう生かすかについて説明。 動画(全体)

[32:27頃] 前半は、法案に関する不確実性や提案の妥当性についての意見を述べた。アメリカのトーマス・ジェファースンの名言(「人民の生活と幸福を守り、破壊させないことが、良き政府にとってもっとも大切な目的である」)を引用し、政府の役割について言及。そして、古代ギリシャ(アテネ)での例として、貴族が農民を搾取する時代(貴族制)からソロンの政治改革(貴族の権利を縮小、農民の負債帳消し)をへて、政府は法と正義に基づかない行為はやってはいけないという時代(民主制)への変遷を説明。

[37:30頃] 後半は、そして公民投票と直接民主制の目指す方向(違い)へと話が移り、政府がやるべきこととして、死刑存廃問題や人権、外交政策に関する法律的な論点を説明。これらの問題は法律によって判断されるべきであり、単純な公投に委ねるべきではないと強調した。

- 人権問題としての重要性が強調
- 死刑問題を公投にすることによる社会的影響についての懸念を説明。
- 法律による最終的な判断の重要性を説明。
- 外交政策は、政府の責任であり、国民が決定すべきではないと説明。
- 最後に憲法の基本的権利保障に関する考察も行った。



台湾立法院



■講演 2024年 秋季講演会

10月20日、定例の秋季講演会を「稲門祭」に団体参加するかたちで開催しました。

(早稲田キャンパス7号館307教室/15:00~17:00)。講師は本学法学部非常勤講師の鈴木武生先生。鈴木先生は英語、中国語、台湾語などの多言語話者で、台湾「原住民」のタイヤル語(アタヤル語とも)の研究者でもある言語学者です。

演題は「多言語社会台湾とその人びと」。台湾は日本と似ている面もある一方、多言語社会という点が大きく異なります。その社会を、鈴木先生が自身の体験も踏まえて語ったのが今回の講演でした。オンライン配信も予定していましたが、機材のトラブルで実現しませんでした。そこで、オンライン配信申し込み者には、講演の概要とレジュメとをお送りします。事情により時間を要しましたが、12月20日ごろにはお届けいたします。

また概要は当会のホームページにも掲載いたします。(梶山憲一 常任顧問)



鈴木武生先生

<講演のエッセンス>

※下記内容の文責は日台稲門会幹事会。より詳しい概要はホームページに掲載します。

●多言語社会台湾とその人々 講師：鈴木武生(すずき・たけお) Ph.d (株)アジアユーロ言語研究所 代表取締役)

- 【01】台湾との出会い / 台湾では、中国語とは別に「台湾語」と呼ばれる言語も話されていることに気づき、台湾語への関心が高まりました。
- 【02】台湾初訪問 / 80年代に初めて台湾を訪れると、日本語を流暢に話す中年以上の人たちがいたことにも驚きでした。台湾への関心が高まりました。
- 【03】なんで台湾語なんか勉強したいの? / 言葉はアイデンティティーと密接に結びついているということを強く感じました。
- 【04】衝撃のクアドリリンガル文化 / 台湾では、主に使われているのが4言語もあるという「クアドリリンガル文化」といえそうです。
- 【05】二本松の出会い / タイヤル族の村を訪問する機会があり、アタヤル語(タイヤル語)のフィールドワークを始めました。
- 【06】イツ、ウメヲ、ツミニキマスカ / 私は何度もタイヤル族の村を訪ね、滞在もしてアタヤル語の収集に努めました。
- 【07】さらに発展する多言語文化 / 台湾の多言語文化は、中国語、台湾語、客家語のほか台湾「原住民」諸語の「アウストロネシア語」もあり、重層的で大きな広がりをもっています。そして台湾では、多言語社会を発展させる法整備などの動きがみられます。

■ —巨漢記者・吉村剛史さんが「台湾フェロシップ」に合格！—



吉村さん

台湾の外交部は、台湾や两岸関係などの海外の研究者が台湾の学術機関などで研究し、学術交流などを促進するのを奨励するため、それらの研究者に奨助金を出している台湾フェロシップと呼ばれている制度だ。もちろん奨助金をもらえる研究者は、応募し選考にパスした者だけだ。

2024年の総会のあとの6月某日、産経の記者として台北支局長も経た、当会の会友である吉村剛史さんから、私にメールが来た。「台湾フェロシップに応募したので、ついでには日台稲門会の推薦状を頂戴できないか」と言うのだ。

応募には履歴書や研究計画書のほか推薦状が3通必要で、台湾に関係した学術団体や交流団体、研究者からもらう準備中で、残りの1通を当会からということだそう。

吉村さんの研究計画は、台湾での日本語メディア報道の変遷といったもので、台湾で期待される日本の行といったことにもつながるようだ。とすれば、日台交流を目的の一つとする当会にとっても有意義なものといえそう。

そこで、私は根本会長ほか役員各氏にメールを送って相談したところ、推薦状を出そうということになった。

推薦状の文章は、私が台湾でいう「國語」で書き、帝京大学で教鞭をとっていた台湾人の蔡易達さんに添削をお願いして完成。それに根本会長がサインして当会からの推薦状が整った。

その当会からの推薦状も含めて、吉村さんが駐日代表処経由で書類を外交部に提出したところ見事合格。吉村さんは2025年1月から1年間、奨助金を受けて研究生生活をするようになった。「巨漢記者」との別名もあるジャーナリストの吉村さんのことだから、日本やほかの国へと足を伸ばすこともしばしばだろうが、拠点は台北ということになる。

吉村さんが「台湾フェロシップ」に合格したことは、秋季講演会後の懇親会の席でもお披露目があったが、当会も関与したことなので、広く会員・会友をはじめ、このニュースレターの読者にお知らせすることにした。また、次号のニュースレターには、台北で生活を始めた吉村さんからのレポートを掲載する予定だ。そして、1年間の研究を終えた暁には、当会の設けた場で、その成果を話してもらいたいものだ。（梶山憲一 常任顧問）



推薦状

■最近の情勢

・台湾 野球の国際大会「プレミア12」で優勝

11月24日、野球の国際大会「プレミア12」で台湾が、4:0で日本を下し優勝したが、台湾凱旋後の26日、パレードで市民が台湾尚勇（タイワンシャンヨン）を歌いながら熱狂した。YouTubeで台湾尚勇（下記）を見てみると、だんだん興奮してくるから楽しい。青森のねぶた祭りの跳人（はねと）をみていると自分も踊りたくなる、そんな感じだった。

日本で派手なビールかけを辞退した配慮が、日本人に好印象を与えたためか、（日本が）負けて悔しいという気持ちが不思議と起きない。次は、WBC優勝か。頑張ってほしい。<https://music.youtube.com/watch?v=3lw9tgQYqWM>

(♪) 王者台湾 台湾尚勇 (♪)

吼 (Ho) 吼 吼 吼 吼 吼 吼 吼
吼 吼 吼 吼 吼 吼 吼
HERO! HIT! 安打! (選手名)
HERO! HIT! 安打! (選手名)



YouTube より



出所：スポニチ Sponichi Annex

<https://www.youtube.com/watch?v=3lw9tgQYqWM>

■最近の新聞より

・12月15日、英国 TPP 加盟発効 12カ国 2300兆円経済圏に（世界GDPの14.7%）（12/16 産経新聞）
各国の現状、加盟に関心（韓国、タイ）→加盟申請中（台湾、中国、ウクライナ）→加盟交渉 →加盟（英国）
加盟条件：現加盟国の全会一致が加入条件 加盟を許された英国も今後申請国の加盟を拒否もできる

- ① 自由貿易の促進（関税引下げ・撤廃、貿易自由化）、②知的財産権の保護、③環境と労働権の保護
④透明性と公正な競争（透明性のある政策と公正競争）

現加盟国：豪州、ブルネイ、カナダ、チリ、日本、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、ペルー、シンガポール、ベトナム、英国
（インターネット各種情報から）

・風化は日本の国民性か 垂 秀夫 前駐中国大使（12/15 産経新聞 「日曜コラム」）

・TSMC 日本人技術者育成急ぐ（11/20 毎日新聞）

・潮音寺 台湾に眠る戦没者 「祖国帰還」目指す（11/20 産経新聞）

・香港民主派・戴氏 禁固10年 「首謀者」ら45人に量刑 民主派から「裏切り者」批判も（11/20 産経新聞）

■最近の経済ニュース（劉彦甫さん）

劉彦甫さん（WUSA 出身で現在東洋経済新報社記者）の署名記事を紹介します。
記事タイトルと URL を記します
（劉記者の記事は、下記サイトを参照）



出所：東洋経済新報社

- ① 日本人学者、台湾で「選挙の神様」になった理由 2024/10/03 発信
台湾で最も有名な日本人研究者の軌跡（前編）

【小笠原欣幸氏（東京外国語大学名誉教授、台湾・清華大学名誉講座教授）】

<https://toyokeizai.net/articles/-/830681>

- ② 台湾「選挙の神様」が見つめる有事に偏らない実像 2024/10/10 発信
台湾で最も有名な日本人研究者の軌跡（後編）

<https://toyokeizai.net/articles/-/830684>



小笠原先生①



小笠原先生②

■2024 年、映画を創った！（映画監督 小川英郎）

台湾をこよなく愛し（熟知し）、台湾政治についても一家言をもつ
小川英郎氏が、今までの知識・経験をもとに映画を作りました。（デビュー作）
以下、監督のコメントです。

2024 年初めて映画を創った！タイトルは『陳さんと勝太郎』。

舞台は台湾台東県成功鎮。そこに住む陳韋辰は 7 年前の Xmas の日、
妻にねだられ、嫌々教会の音楽会に行った。

「この建物は日本人が建てたのですよ」と牧師に教えられた。
隣に病院があり医者嫌いの陳さんは教会も、苦手な医者が建てたと
思い込んでいた。「えっ、日本人が建てた！誰？」

その時からその日本人菅宮勝太郎に取りつかれていくのだった。
勝太郎氏は 1907 年日本統治時代に警察官として赴任し、退職後も成功鎮、
当時の新港に残り一生を捧げた。

この続きは映画を観て下さい！

連絡頂ければ小川英郎監督自ら上映会に駆けつけます
（今年は代表処副代表出席の下、東京台湾の会総会をはじめ、
菅宮勝太郎ご子孫向けに上映会を行いました）

そして 2025 年 4 月 26 日(土)陳韋辰さんが来日し、講演を行います！
（於 中野区役所ナカノバ）皆様 良いお年を！



小川英郎監督

■雪川睦美さん（台湾エンタメ迷）のおすすめの台湾映画

先月、台湾の映画祭・金馬獎が開催されましたのでそちらの結果をご紹介します。

★『一部未完成的電影 (An Unfinished Film)』（婁燁（ロウ・イエ））シンガポール、ドイツ / 2024 / 107 分

今回は中国の監督や作品が主要部門を受賞する結果となりました。
最優秀作品賞及び監督賞を獲得したのは中国人監督である婁燁（ロウ・イエ）の
《一部未完成的電影》になります。

婁燁（ロウ・イエ）監督は天安門事件を描いた『天安門、恋人たち（原題：頤和園）』
を製作し、当局から上映禁止および 5 年間の国内映画製作禁止措置を受けた監督でも
あります。

実はこちらの作品、中国では上映されておりません（当局の公開許可が下りていない）。
あらすじの通り、COVID-19 のロックダウンの様子をドキュメンタリー風に撮っている
ためでしょうか？

《一部未完成的電影》の作品紹介は東京フィルメックスのページをご確認ください。

<https://filmex.jp/program/ss/ss2.html>



映 画 表彰式の模様
（緊張気味？の阿部寛さん）

なお、今回の金馬獎で最多ノミネートしていたのは11部門ノミネートの台湾映画《鬼才之道》でした。

主要部門での受賞は逃したものの、最優秀視覚効果など5部門で受賞となりました。

この作品の監督は『返校 言葉が消えた日（原題：返校）』を製作した徐漢強（ジョン・スー）監督です。

『返校 言葉が消えた日』はしっかりとしたホラーですが、『鬼才之道』は幽霊界を舞台にしたコメディになります。

近年の台湾ホラー映画ブームをパロディにしたシーンもあり、楽しい作品ではありません。

今回は残念ながら台湾の映画が作品賞受賞を逃しましたが、華語映画圏の勢い・刺激を受けて台湾映画界の才華が大きく花開くであろうことが個人的に楽しみに感じております。表彰式ではプレゼンターとして阿部寛(アブカン)が参加していた。

<https://www.youtube.com/watch?v=RvVI70FHd74>

あらすじ（出所；第25回東京フィルメックス）

2019年、物語は10年間電源が入っていなかったコンピューターが起動される場面から始まる。そこには放置された未完の映画が入っており、その映画の監督は主演俳優を呼び出し、制作の再始動を提案する。様々な理由で躊躇していたものの、2020年1月の春節を目前に撮影準備が始まると、主演俳優はクルーに合流している。彼らはすぐに制作に取りかかるが、程なくしてコロナ禍対策のためのロックダウンのニュースが広まり始め、何人かのキャストは荷物をまとめて去っていく。そしてすぐにホテル全体が強制的に封鎖され、主演俳優とクルーは各部屋に閉じ込められてしまう……。本作は、未完に終わったクィア映画（LGBTQ+のキャラクターやテーマを中心に描いた映画）を完成させるために再集結した映画制作チームを描いたドキュフィクション作品。映画制作の過程とパンデミックを生き抜く過程が、感染拡大で制作が中断し、全員がホテルで隔離されるという場面で結び付けられる。そこからフィクションと現実の境界が更に曖昧になっていくが、それでも溢れ出る真摯さや真実味こそがこの作品の真骨頂だろう。カンヌ映画祭にて特別上映作品として上映された。

■早稲田を語る、台湾を語る、世界を語る＜白井克彦元総長と面談＞

去る12月10日、当会幹事会メンバーが、第15代早稲田大学総長（2002～2010）であった白井克彦先生とお会いする機会が作られた。これに出たメンバーは、岩永康久名誉会長、渡邊義典副会長、私（梶山憲一）の3名と、面会の仲介役を務めてくれた山崎総幹事であった。山崎幹事はかねてより白井元総長と面識があり、白井元総長が台湾との縁も深いことから当会幹事との面会を提案、上記3名がこれに応じたものである。根本宏児会長も出席の意向であったが、仕事のため不参加となった。

同席した当会の3名のうち、岩永名誉会長と渡邊副会長とは、以前にも白井元総長と面会のほか浅からぬ縁もあり、初対面は私ひとりであった。

さて、この面談の場所は、赤坂・日枝神社近くのビルにある「永楽倶楽部」。大正4年に早稲田大学の校友会倶楽部として大隈重信侯により設立されたもので、現在は開かれて他大学出身者も3割ほどはいるが、100年を超える歴史をもつ日本有数のメンバーズクラブという。そして倶楽部の現会長が白井元総長である。その永楽倶楽部の一室に上記の5名が集うと、名刺交換のあと、すぐさま談笑が始まった。岩永名誉会長が「お元気そうですね」と、白井元総長に声をかけると、「そうでもないよ」と応じられた。白井元総長は1939年生まれの現在85歳。

「そうでもないよ」とは正直な思いかもしれない。自身の70歳代と較べれば、老いを感じてもおられるだろう。しかし、一般の85歳と較べれば、「お元気そう」としか言いようがない。頭脳は明晰で回転も速く、頭脳の劣化が始まりつつある71歳の私などは、びっくりするしかない。

5人の談話は、白井総長の誘いで、母校で8年間教鞭をとることになった岩永名誉会長が話題を出し、白井元総長がそれに応え、また渡邊副会長が意見を述べ、口下手な私が時折なんとか話すというさまで進み、いちばん年少の山崎幹事は話すのを控えているようだったが、話が少し滞ると口を開いて交通整理をしてくれるのだった。

話題は、白井、岩永、渡邊の三氏ともがご存じの呉東進氏（早大商卒／新光グループの核心・「新光金融控股」前董事長）など台湾の財界人についての思い出、早稲田大学に関する話題（東京女子医大と早大との連携で進めている研究など）、はたまた移民問題や、中東や西アジア、またウクライナ戦争などの国際情勢と、広く語り合った。話題が広いだけに深く掘り下げた議論ではなかったが、どういう視座から世界を見るかという点では、示唆に富む話はいくつもあったように思う。白井元総長のような方との意見交換は、当会の今後を展望してゆくうえでは、必ず益するところがあるものと思う。気がつけば、あっという間の1時間半。永楽倶楽部の出すバランスの取れた昼食を食べながらのことだった。

そして、そのあとは、かつて雄弁会だった山崎幹事の音頭取りで、校歌を3番まで白井元総長ほか全員で斉唱。校歌を「第二の国歌」と呼ぶ山崎幹事ほどの思いの強さは私にはないが、「かがやくわれらが 行手を見よや」との思いは一にしている。（梶山憲一 常任顧問）



■第30回秋季日台早慶ゴルフ対抗戦

日台早慶戦ゴルフは第30回目の節目を迎え、10月8日に千葉県の「泉カントリー倶楽部」で開催されました。

年2回、春と秋に開催され15年も続いています。

この日は根本キャプテンが「駐日台北経済文化代表処」の新代表(大使)の着任レセプションに招待されたため欠席。更に、「泉カントリー倶楽部」でのコンペ開催を予約していただいた岩永名誉会長も、ご親族のご葬儀のため急に欠席となりました。この結果、早稲田は「飛車角抜き」で慶応と対戦することになりました。

当日は雨模様でしたが、雨天決行となり、早稲田12人、慶応13人、合計25人7組でのコンペとなりました。

「飛車角抜き」の早稲田は善戦したものの、結果は19打差で慶応優勝となりました。

参加者のほとんどが台湾での早慶戦ゴルフの経験者ですから、和気あいあいと、台湾時代の思い出や、淡水ゴルフ場での早慶戦のあれこれを語り合いながらプレーしました。プレー終了後は勝田台駅前の居酒屋で懇親会を行い、ここでも大盛り上がりでした。次回は2025年5月に開催予定です。会員の皆様のご参加をお待ちしています。(渡邊義典 副会長)

■新入会者紹介(広谷光紗 幹事)(入会順、敬称略)

本年10月の入会者2名を報告いたします。

鹿志村隆康、中村英司



日台稲門会
グループ

■Facebookグループ「日台稲門会」ご利用のお勧め(西本誠 事務局長)

※グループURL: <https://www.facebook.com/groups/nittai.toumon>

日台稲門会では、情報発信ツールとして下記「サイト」に加えて、幹事会有志を「管理人」とした「Webサロン」として、Facebookグループ「日台稲門会」を運用中です。

※日台稲門会関係者(会員・会友・OB・etc...)の交流を目的としておりますので、会員・会友の皆様によるご投稿をお待ちしています!

管理人代表 西本 誠

<https://www.facebook.com/makoto.nishimoto/>



管理人代表
プロフィール

記

公式HP <http://nittai-toumonkai.com/>

FBページ <https://www.facebook.com/nittaitoumonkai/>



公式HP



FB ページ

編集後記

台湾の人の言語取得能力は日本人と較べると格段の違いがあり、それはだれもが認めるところである。過日、台湾出身の幹事と言語取得について話す機会があった。台湾で最初、日本語を少し話せる若い台湾の先生から国語(華語)の個人レッスンを受けたが、授業中先生が日本語で質問してくるため、日本語で応対していたら先生の日本語はみるみる上達したが、肝心の生徒(私)はまったく進歩しなかった。これじゃだめだと思って、最後は日本語が全く話せない先生から朝7時から8時まで自宅で女房と一緒に学んだ。その結果、日本語を話せない先生から学ぶ方がうまくなることを知った。

こんな体験談を幹事に話したら、幹事は「そういうことは、台湾人でも当てはまります」と言って蔡英文前総統の子ども時代の話をした。蔡氏の両親は子供にしっかりした日本語を学ばせるために日本から来た有名な交換教授に日本語教育を依頼した。そしたら1年半後、日本に帰る時、その方の国語(華語)はものすごくうまくなっていた。しかし、蔡氏の日本語はそうならなかったとか。(そうはいつても、両親が想定していた日本語レベルに到達しなかったただけだと思うが・・・)

同じようなケースで、UAE(アラブ首長国連邦)でアラビア語を勉強したときも、先生たちも(スーダン、チェニジア、ヨルダン、パレスチナなど。不思議とUAE人はいなかったが)なまじっか英語が話せるので、英語を通じたアラビア語の授業になって、今回も私は進歩しなかった。だが、これまたアラビア語しか話せないシリア人の先生に習ったら、こちらも華語と同様に進歩を実感できたのである。不思議なものである。そんなことを思い出しながら、「台湾の人は、日本語だけの世界に飛び込む勇気があるから、1年ちょっとでも日本語をマスターできるのだろうな。」と自分自身、答えをみつけた。

(H)